

日本の高等教育機関で 日本語教育を行う意義

前日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部長
池田 伸子 氏

○丸山 どうもありがとうございました。

それでは今度は、学内の日本語教育のお立場から、池田先生、よろしくお願いたします。

○池田 では、最後に立教大学の日本語教育センターに関わってきた者として、立教大学の国際化を促進する上で、日本語教育センターがどういう役割を担えるか。その機能についてお話をしたいと思います。

まず、いろいろな先生方から、日本語教育センターの果たすべき役割についてご提言をいただきまして、非常に感謝しております。それを実現させていくために、私は日本語教育センターの果たすべき役割を3つに分けて考えています。

まず、1つ目は「連携」です。2つ目は「研究」、そして最後が「発信」ということでございます。「連携」につきましては、学内・国内・国外、この3つの点での連携が非常に重要だと考えています。【スライド④-2】

まず「連携」ですけれども、学内においては、いろいろな学部、研究科、それぞれが、それぞれの国際化の必要性を抱えています。どんな日本語教育が必要とされているかというのは、それぞれ個別の学部、研究科によって異なっているはずで、日本語教育センターはそういう学部や研究科と個別に連携をし、協力をして、その学部が最も欲しいプログラムを、協力して開発していきたいと考えています。それから、学部や研究科とは、教育プログラムだけではなくて、日本語教育のアドバイスであるとか、留学生支援のアドバイス、そういうものについても積極的に情報を提供していきたいと思っています。

それから、留学生の就職というお話も出てきましたが、日本語教育センターは

これからもっと積極的に、学内のキャリアセンター、それから学生課、そういうところとの連携を深め、立教大学で学んだ留学生をきちんと社会に送り出していける、そういう機能もお手伝いをしていくことが必要だと思っています。

それから、国内ですけれども、国内にはさまざまな日本語教育機関があります。大学だけではなくて、さまざまな機関であったり、日本語学校であったり、いろいろなところがあります。日本語教育センター、大学の日本語教育機関としては、そういうところときちんと連携を取る。お互いが何をどういうふうに行っているのかということときちんと知っていく。お互いに知り合っていくということで、その結果、それぞれの機関の得意分野をきちんと伸ばして行って、地域、地域の拠点化していく、そういうことも必要だと思っています。そのためには、やはり立教の日本語教育センターが、立教でしかできない日本語教育プログラムというものを開発し、それを持って、国内の、あるいは東京の、あるいは豊島区のかもしれませんが、拠点になっていくというようなことも必要だと思っています。そういうことを通して、共同で教材を開発していく、共同でプログラムを開発していくということも可能になると思います。

それから、最後に国外ですけれども、国外においては、この連携が非常に、もっと重要になってきます。日本語というのは、日本の中で使われている言語ですし、海外の日本語教育機関で日本語を教えている先生方の中には、日本人ではない方というのも数多くいらっしゃいます。また、地域によっては、日本語教材へのアクセスが非常に難しいという地域もございます。そういったときに、やはりそういうところと信頼関係を築き、共同のプログラムを開発したり、教材開発をしたり、また、何かそういうところの支援をしたりということについて、立教の日本語教育センターというのは、これからどんどん役に立っていける可能性を持っていると思います。【スライド④-3】

続きまして、「研究」です。今、述べさせていただいたようなことを実現するためには、まず日本語教育がベースになければいけません。でも、教育だけを延々とやっている教育プログラムというのは、そこに改善が見られません。その教育の改善のためには、研究が必要不可欠です。研究に基づいた教育、研究に基づいた教材開発、また、その結果を教育の現場に還元させていく。それがきちんと、連携が取れたところで、本当に質の高い教育プログラムが可能になっていくと考えます。ですので、教育・研究・教材開発、この3つの柱は、日本語教育セン

ターとしては、今後も積極的に実施をしていきたいと考えています。【スライド④-4】

最後に「発信」です。今言ったように、研究に基づいた教育、研究に基づいた教材開発、そういったことを実現しても、それを立教の中だけにとどめておいては意味がありません。それを国内外に広く発信していく。立教の中でこういうことが行われているということを広く発信していくことで、ますます国内外の教育機関との連携が強まっていきます。何も発信しなければ、どことの連携も始まりません。ですので、そういうことをきちんと発信し、連携も強めていく。その結果、国内外での立教大学の名前というのが広まっていく。それを通して、立教大学で学んでみたいという学生数を増やす。そういった役割を日本語教育センターは担っているのではないかと思います。ですので、日本語教育機関といえますと、日本語を教えるだけと認識されがちですが、そういう役割を果たしているのだと考えています。【スライド④-5】

私は先ほど来、多くの先生方も言っていますように、大学の国際化を、学生を国外に送り出すこととは考えていません。真の国際化は、キャンパスを国際化すること。そのためには、海外から学生をどれだけ受け入れられるかということが



重要になってきます。そのためには、海外の学生にとって魅力的な大学になることこそ重要です。ただ、小手先で学生を海外に送り出す、それで国際化が実現されたとは考えません。そのためには、もちろん学部、研究科が、とがった成果を出していく、発信していくということは必要だと思いますが、その魅力の1つとして役に立てると考えているのが質の高い日本語教育です。

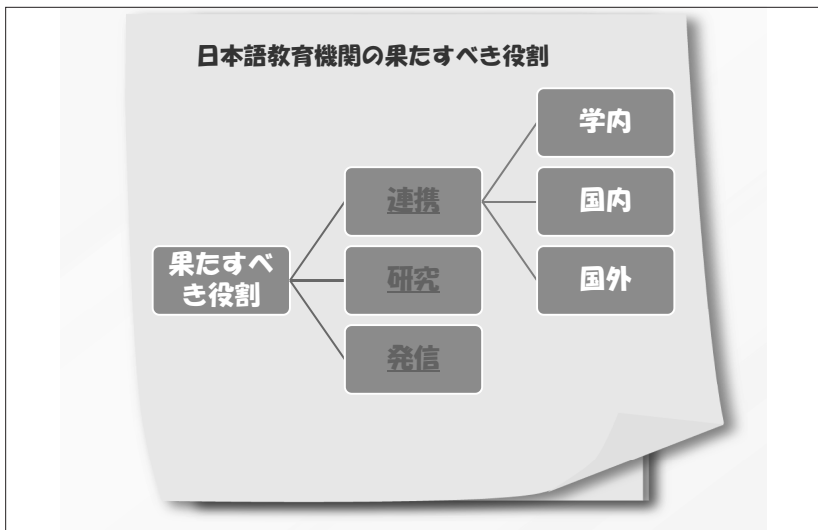
また、海外において、本学の知名度を高めることも重要だと思っていますが、そのために、海外における日本語教員のネットワークは無視できないと考えています。日本語教員は、本当に昔から、いろいろな国で日本語教育を展開してきました。そういったネットワークというのは本当に幅広いのです。今まで立教大学では、この日本語教育関連のネットワークというのが全く活用されてこなかったように思います。今後は、日本語教育センターができたことで、こういうことを活用していただければと思っています。【スライド④-6】

本学で、質の高い日本語教育、多様な日本語教育を展開すること、それを国内外に広く発信することが、本学の真の国際化に結び付くのではないかと考えています。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

【スライド④-1】



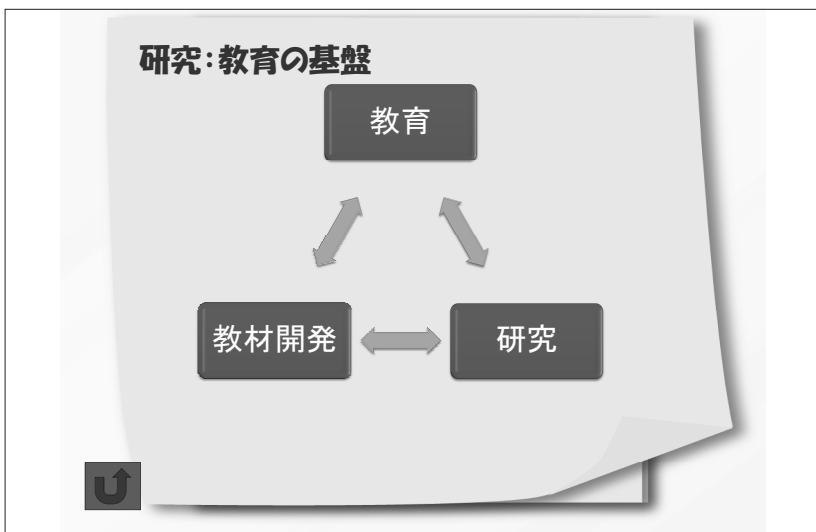
【スライド④-2】



【スライド④-3】



【スライド④-4】



【スライド④-5】



【スライド④-6】

大学の国際化における日本語教育の重要性

大学の国際化≠学生を国外に送り出すこと
真の国際化=キャンパスを国際化すること

海外から学生をどれだけ受け入れられるかが鍵！！

海外の学生にとって魅力的な大学になることこそ重要
その魅力の1つが質の高い日本語教育

海外において本学の知名度を高めることも重要
海外における日本語教員のネットワークは無視できない

本学で質の高い日本語教育を展開すること ➡ 本学の真の国際化
それを国内外に広く発信すること

【スライド④-7】

